

令和4年度

加茂市内遺跡確認調査報告書

馬 寄 遺 跡

舟 戸 遺 跡

2023

新潟県加茂市教育委員会

令和4年度

加茂市内遺跡確認調査報告書

馬 寄 遺 跡

舟 戸 遺 跡

2023

新潟県加茂市教育委員会

序

山紫水明の自然環境に恵まれ、北越の小京都と呼ばれる加茂市では、市内全域で埋蔵文化財包蔵地が確認されています。周知をはかるため登録したところは177か所になります。そのすべてについて詳しい内容を把握するための調査が行なわれているわけではありません。埋蔵文化財包蔵地は地下にあるため、表面からはわからないことがほとんどです。

加茂市では平成7年度から、埋蔵文化財包蔵地周辺で計画される大小様々な開発事業に対応し、事前に内容を把握し、開発事業との調整を行うための試掘・確認調査事業を国庫補助金と県費補助金を得て実施しています。

遺跡を調査する理由として、市内各所で計画される開発事業があり、令和4年度では2遺跡を対象とした試掘・確認調査を実施しました。本書はその調査結果報告書です。各々の調査は小規模で、ささやかなものですが、地域固有の歴史を彩る重要な情報を得ることができます。時には貴重な文化財も出土します。

本書が地域史を語る資料として活用され、埋蔵文化財に対する理解が深まれば、この上なく幸せであります。

最後に、発掘調査に対して様々なご指導とご協力を頂いた新潟県観光文化スポーツ部文化課、並びに試掘・確認調査に参加された地元の方々、地権者および工事関係者に対し、ここに深甚なる謝意を表する次第であります。

令和5年10月

加茂市教育委員会

教育長 山 川 雅 巳

例 言

- 1 本報告書は、令和4年度に新潟県加茂市内の各種開発に伴い実施した2遺跡における確認調査の記録である。
- 2 調査は馬寄遺跡が民間開発、舟戸遺跡が農業用排水路改良工事に伴い実施したものである。
- 3 確認調査の経費は、国庫および県費の補助金交付を受けた。馬寄遺跡の一部については開発者から負担頂いた。
- 4 調査は加茂市教育委員会が主体となり実施した。調査体制（令和4年度）は以下の通りである。

調査主体	加茂市教育委員会	教 育 長	山川雅巳
総 括		社会教育課長	有本幸雄
庶 務		社会教育課主査	吉田如菜
調査担当		社会教育課課長補佐	伊藤秀和
調査補助員		会計年度任用職員	鈴木 進

現場作業員 石森一二三・井上 巖・樋口 清・波塚 徹（公益社団法人加茂市シルバー人材センター会員）
- 5 調査記録図面・写真類は一括して加茂市教育委員会が保管している。
- 6 本書で示す方位はすべて真北である。
- 7 挿図に使用した既存図面については、その出典を記した。
- 8 写真図版1の空中写真は、(株)オリスが平成8年9月12日に撮影した縮尺約1/12,500×82.5%のものを使用している。
- 9 引用・参考文献は著者と発行年（西暦）を〔 〕で文中に示し、巻末に一括して掲載している。
- 10 本報告書の執筆と編集はすべて伊藤秀和が行った。
- 11 遺物の実測、写真撮影についてはフォーカル、トレース、挿図、写真図版の版組みおよび全体のデジタル編集・データ化は、(有)不二出版に委託し、完成データを印刷業者へ入稿して印刷した。
- 12 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の諸氏から多大な御教示・御協力を賜った。厚く御礼申し上げる次第である。（敬称省略・五十音順、機関などは順不同）

鹿取 渉・滝沢規朝

(公社)加茂市シルバー人材センター・(株)ジョブ・新潟県観光文化スポーツ部文化課
加茂郷土地改良区・加茂市文化財調査審議会・原信ナルスオペレーションサービス(株)

目 次

第Ⅰ章 序 説	1
1 令和4年度事業の概要	1
2 遺跡の位置と環境	1
第Ⅱ章 民間開発関連	3
1 調査に至る経緯	3
2 馬寄遺跡	4
(1) 遺跡と確認調査の概要	4
(2) 層 序	4
(3) 遺構と遺物	5
(4) 調査のまとめ	6
第Ⅲ章 農業基盤整備事業関連	8
1 調査に至る経緯	8
2 舟戸遺跡	8
(1) 遺跡と確認調査の概要	8
(2) 層 序	9
(3) 遺構と遺物	9
(4) 調査のまとめ	9
第Ⅳ章 ま と め	10
1 令和4年度調査について	10
2 加茂市内古墳時代前期遺跡の消長（案）について	10
《引用・参考文献》	11
《別 表》	12
1 馬寄遺跡 土器観察表	
《報告書抄録》	巻末

挿図目次

第 1 図 確認調査実施遺跡と本書関連遺跡位置図 2	第 5 図 馬寄遺跡確認調査出土遺物 7
第 2 図 馬寄遺跡推定範囲と調査対象地位置図 … 3	第 6 図 舟戸遺跡推定範囲と調査対象地位置図 … 8
第 3 図 馬寄遺跡確認調査トレンチ位置図 …… 4	第 7 図 舟戸遺跡確認調査トレンチ位置図 …… 9
第 4 図 馬寄遺跡確認調査トレンチ土層柱状図 … 5	第 8 図 舟戸遺跡確認調査トレンチ土層柱状図 … 9

表 目 次

第 1 表 令和 4 年度発掘調査工程表 …………… 1	第 2 表 加茂市内古墳時代前期遺跡の消長 (案) … 10
------------------------------	--------------------------------

写真図版目次

写真図版 1 【馬寄遺跡①】	
馬寄遺跡周辺の空中写真 調査地近景 (北から) 調査地近景 (南東から)	
5 トレンチ 調査風景 (北から) 8 トレンチ 調査風景 (南西から)	
写真図版 2 【馬寄遺跡②】	
1 トレンチ 土層断面 (南東から) 2 トレンチ 土層断面 (南東から)	
3 トレンチ 遺物出土状況 (南西から) 3 トレンチ 土層断面 (南東から)	
4 トレンチ 土層断面 (南東から) 5 トレンチ 下層遺物出土状況 (北東から)	
5 トレンチ 土層断面 (南西から) 6 トレンチ 土層断面 (南東から)	
写真図版 3 【馬寄遺跡③】	
7 トレンチ 土層断面 (北西から) 8 トレンチ 下層遺物出土状況① (北東から)	
8 トレンチ 下層遺物出土状況② (北東から) 8 トレンチ 土層断面 (北西から)	
9 トレンチ 土層断面 (北西から) 10 トレンチ 土層断面 (南東から)	
11 トレンチ 土層断面 (南東から) 12 トレンチ 土層断面 (南東から)	
写真図版 4 【馬寄遺跡④】	
13 トレンチ 土層断面 (北西から) 14 トレンチ 土層断面 (北西から)	
15 トレンチ 土層断面 (北西から) 16 トレンチ 土層断面 (北西から)	
出土遺物 1	
写真図版 5 【馬寄遺跡⑤】	
出土遺物 2	
写真図版 6 【舟戸遺跡】	
調査地近景 (北西から) 調査地近景 (南東から)	
1 トレンチ 調査風景 (北東から) 3 トレンチ 調査風景 (北西から)	
1 トレンチ 土層断面 (北東から) 2 トレンチ 土層断面 (北東から)	
3 トレンチ 土層断面 (北東から) 4 トレンチ 土層断面 (北東から)	

第 I 章 序 説

1 令和 4 年度事業の概要

これまでに、加茂市で組織的に実施された詳細分布調査は 2 回ある。ひとつは昭和 60・61 年度の七谷地区を対象に行われた東部地区詳細分布調査（川上・長谷川^{ほか}1987）、もうひとつが平成 7 年に新潟県教育委員会主催で主に沖積地を対象にして実施された詳細分布調査である。その結果、現在までに加茂市で確認、周知化された埋蔵文化財包蔵地は 177 カ所となっている。これらの成果に基づいて、官民の各種開発事業との協議・調整が行われてきた。

加茂市では平成 4 年に埋蔵文化財専門職員を 1 名採用し、当時喫緊の課題であった遺跡の発掘調査に対応してきた。平成 9 年から平成 19 年頃までバイパス建設や圃場整備事業、令和 2 年度から今年度にかけては市道建設など大規模な公共工事に伴う発掘調査が行なわれたが、いずれも平成 7 年度から国庫補助事業として開始した市内遺跡試掘・確認調査を行った後のことである。なお、既往の発掘調査で報告書が未刊行であったものについては、『加茂市史 資料編 4 考古』（加茂市史編集委員会 2016）に概要が記載され、主要な調査成果はひととおり公となっている。

令和 4 年度の確認調査は、大手スーパーの出店計画と加茂郷土地改良区による農業用排水路改良工事に伴い 2 遺跡を対象に実施した。このほかに、平成 28 年度から開始した剣ヶ峰城跡の地形測量と確認調査について、本年度も継続実施した。また、花立遺跡も昨年度に引き続き、本調査を実施した。

遺跡名	調査	調査原因	遺跡の主な時代	月 発掘調査期間													備考
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
馬寄遺跡	確認	民間開発（店舗建設）	古墳～古代								■		■				
舟戸遺跡	確認	農業用排水路改良工事	古墳～古代											■			
剣ヶ峰城跡	測量・確認	保存目的の学術調査	中世		■												本書未収載
花立遺跡	本調査	道路建設工事	古墳～古代														本書未収載

第 1 表 令和 4 年度発掘調査工程表

2 遺跡の位置と環境（第 1 図）

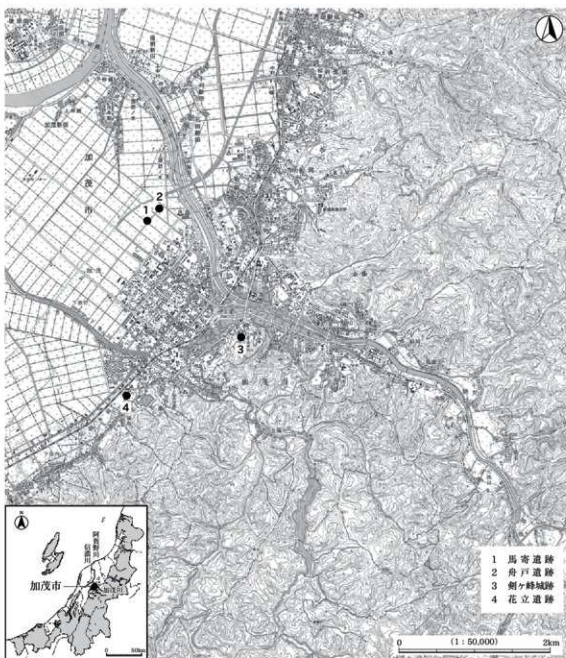
加茂市は新潟県のほぼ中央の県央域に位置する。市域周辺は田上町、五泉市、新潟市南区（旧、白根市）、三条市と接する。東部に高さ 1,000m を超える粟ヶ岳、権ノ神岳などの山岳が聳え、粟ヶ岳を源とする加茂川は上流部で小乙川、高柳川、大谷川などの支流を集め、谷底平野を縦貫し、加茂新田地区で信濃川に合流する地勢を持つ。一級河川加茂川の流域延長は約 11km である。

加茂川上流部は「七谷」地区と呼ばれ、加茂川およびその支流が小規模な段丘を形成し、旧石器時代～縄文時代の遺跡がその段丘上に多く分布する。一方、弥生時代～古代の遺跡は極めて少なく、中世になると小規模な山城や信仰関連遺跡が多く確認され、再び遺跡数が増加する。一方、加茂川が東山丘陵を抜けた市街地域には扇状地形が形成され、下条川流域右岸で突如、弥生時代後期後半の集落（中沢遺跡）が出

2 遺跡の位置と環境

現する。また、沖積地では古墳時代前期と後期に一段と集落が広範囲に展開し、その後若干の空白期間を挟んで、奈良・平安時代の大規模な遺跡（馬越遺跡など）が成立する。中世の集落遺跡は調査された事例が少なく詳細は不明である。

馬寄遺跡（1）と舟戸遺跡（2）は隣接し、ともに加茂川左岸の沖積地に位置する。加茂市役所庁舎西側の一面水田地帯で確認されている。現地表面の標高は約6mである。既往の調査では古墳時代前期～後期の土器が出土している。剣ヶ峰城跡（3）は加茂城跡の西側に連なる標高110mの尾根上にある戦国期の山城で、帯状に連なる曲輪の要所に堀切が配置されている。花立遺跡（4）は東山丘陵の縁辺部で扇状地の端部に位置し、緩傾斜地となっている。現況は畑や水田で標高は約12mである。古墳時代前期と平安時代の集落が発掘調査されている。



第1図 確認調査実施遺跡と本書関連遺跡位置図 (S=1:50,000)

(国土地理院 平成14年発行 [加茂]・平成22年発行 [矢代用] S=1:25,000 縮刷)

第Ⅱ章 民間開発関連

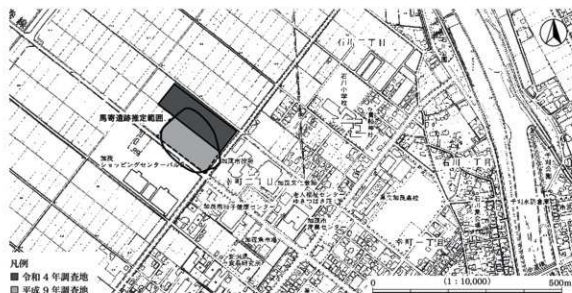
1 調査に至る経緯

従来から、加茂市役所庁舎の隣にスーパー原信が出店する計画があると巷間に聞こえていたが、市教委が正式に計画を把握したのは令和3年度の終わりごろであった。令和4年3月に調査設計会社および原信ナルスオペレーションサービス（株）の開発担当者を受けて協議を行い、計画地は周知の遺跡である馬寄遺跡の推定範囲内にあること、平成9年に同地の一部の区域でショッピングセンターの出店計画があり、確認調査を実施したところ古墳時代前期の遺跡が確認されたこと（伊藤 1997）、予定地では事前に試掘確認調査が必要なことなどを説明し、了承を頂いた。その時点での開業および工事予定や現状、稲の作付を行っていることを踏まえ、確認調査は稲刈り後に実施することで合意し準備に入った。

その後、令和4年8月24日付けで（株）原信の代表取締役 原 和彦氏から遺跡発掘調査の依頼文が土地所有者の承諾書を添えて、市教委教育長宛てに提出された。開発面積は約25,800㎡で稲刈り後の調査を希望するものであった。予定地のおよそ半分ほどは平成9年に確認調査を実施した区域であったことから、今回は残りの未着手部分を対象に調査を行うこととした。

おりしも花立遺跡で発掘調査中ではあったが、日程を調整し準備を進めた。文化財保護法第99条第1項の規定による埋蔵文化財発掘調査の着手報告について、令和4年9月30日付け民資第124号で新潟県知事宛てに提出し、確認調査を実施した。

なお、当初は次期の作付はしないとのことで話を進めていたため、掘削土でそのまま埋戻しを行ったが、調査後に次期も作付する方針が示され、耕作への支障が懸念されるため、後日に再度掘削し、川砂を入れる埋戻し作業を実施した。それにかかる経費の一部については原信ナルスオペレーションサービス（株）から負担頂いた。



第2図 馬寄遺跡推定範囲と調査対象地位置図 (S=1:10,000)

(加茂市 平成20年印刷 加茂市街図) S=1:10,000 原図

2 馬寄遺跡

(1) 遺跡と確認調査の概要 (第2・3図)

馬寄遺跡は加茂川左岸で現況水田地帯の沖積地に確認されている。南東部は市街地化が進んでいる。遺跡は平成7年の詳細分布調査により発見された。平成9年に12トレンチ、約120m²の確認調査が行なわれ、時期不明ながら付札木簡、古墳時代後期、古墳時代前期の土器が大量に出土した(伊藤1997)。

確認調査は、令和4年10月3日～5日に行った。工事計画予定地内に任意にトレンチを設定し、重機により約2.2m×2.3mの大きさで16か所掘削し、遺構・遺物の検出および土層堆積の確認を行った。埋戻しはそのまま点圧しながら掘削土で埋戻したが、建設業者の業務や天候の関係で10月25・28日に再度50cm程度掘り返し、川砂を約20cm厚で充填しながら埋戻しを行った。その後、耕作者の希望で四隅にイボ竹を刺して掘削場所を明示した。

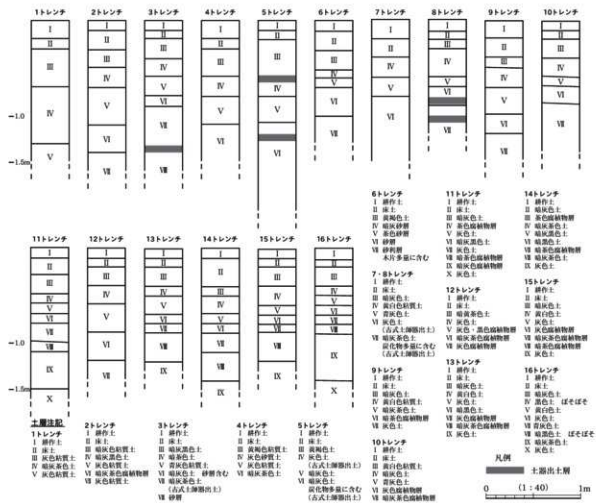
(2) 層序 (第4図)

基本土層は、1～16トレンチで一様ではない。I・II層は共通するが、III層以下が異なる。しかし、多くのトレンチで底植物層や砂層などが確認でき、一帯が湿地または河川流路にあたることが推測される。3、5、8トレンチで遺物が出土したが、それぞれ土層も同じではなく、遺物包含層や遺構確認面を把握できなかった。この結果は、平成9年調査時と同様である。また、北東方向に向かい地盤が低くなることを予見していたが、その様相を裏付ける結果である。



第3図 馬寄遺跡確認調査トレンチ位置図 (S=1:4,000)

(加茂市 昭和58年印刷 [加茂市街図その7]・平成17年印刷 [加茂市街図その11] S=1:2,500 縮図)



第4図 馬寄遺跡確認調査トレンチ土層柱状図 (S=1:40)

(3) 遺構と遺物 (第5図)

遺構は認識できなかった。3、5、8トレンチから出土した遺物はすべて古墳時代前期の古式土師器である。3トレンチは現水田面から約1.3m下のVII層暗灰茶色土から6点、5トレンチは出土層が二つ認められ、上層が約0.6m下のIV層灰黄色土から89点と下層が約1.2m下のVI層暗灰黄色土から166点、8トレンチも出土層が二つ認められ、上層が約0.8m下のVI層灰黄色土から47点と下層が約1.0m下のVII層暗灰茶色土から75点の合計383点出土した。3トレンチVII層、5トレンチVI層、8トレンチVII層は同じ土層の可能性ある。また、5トレンチIV層、8トレンチVI層も同じ土層の可能性ある。

古式土師器の器種は甕を中心に壺、高杯、器台が確認でき、5トレンチの小型壺(6)や8トレンチの甕(11)などは横位の状態でほぼ完形で出土した。以下、抽出した遺物について各トレンチごとに記す。

3トレンチ(1・2) 1は高杯の口縁部片で大きく外反する。厚みがあり、内外面ともによくミガキ調整され、赤彩が施される。東海系の高杯であろう。2は甕である。口縁部は「く」の字状に開き、頸部は短く、口縁端部は丸い。外面は目の粗いハケ調整が施される。

5トレンチ(3~9) 3は上層出土の甕で、口縁部および底部片である。口縁部は「く」の字状に開き、端部に面を持つ。底部は平底である。

4~9は下層からの出土である。4は杯部の口端部を欠損するが、完形に近い高杯である。「ハ」の字

に開いた長い脚部に、大きく開いた杯部がつく。接合部には段を持つ。杯部内外面および脚部外面は丁寧なミガキ調整が施される。脚部中位に小さな円孔が4つ確認できる。いわゆる東海系とされるものである。5は器台の脚部で、外面は丁寧なミガキ調整が施される。6は完形の小型壺（直口壺）である。器壁の厚い作りで胎土に目の粗い砂粒が多量に含まれる。算盤玉状の扁平な体部から、「く」の字状に開いた長い口縁部が約20°の角度で立ち上がり、端部は丸い。概ね口縁～頸部と体部～底部にかけての比率は1:2である。体部の器高（10.0cm）/ 胴部最大径（14.1cm）の指数は71を示す。より扁平になると指数は低くなる。土器の容量は0.77ℓである。

7～9は甕である。7は短い口縁部が「く」の字状に開き、端部に面を持つ。8はやや長い口縁部が「く」の字状に開き、端部は丸い。端部の整形は不揃いで、がたがたしている。これは、前期前半（5・6期）の近江系の長浜甕に看取される特徴で、その名残の可能性かも知れない（滝沢氏ご教示）。9は小型の甕で、小さい平底の底部から胴部が内湾しながら立ち上がる。外面は底部も含めハケ調整、内面には縦方向のナデ調整が施される。

8トレンチ（10・11）10は上層から出土した甕で、口縁部が「く」の字状に開き、端部に面を持つ。11は下層から出土したほぼ完形の甕である。丸底の底部に、中位に最大径を持つ胴部を持つ。口縁部は「く」の字状に開き、端部は丸くおさめる。外面は縦・斜方向、内面は横方向のハケ調整が見られる。器高20.0cm、胴部最大径19.8cm、容量は3.43ℓである。本資料を糸魚川市の六反田南遺跡周辺の弥生時代後期～古墳時代前期の甕の法量分布図に当てはめると、中型の範疇に含まれる〔中川・高橋^{ほか}2016〕。

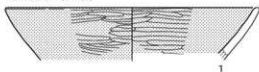
上記はすべて古墳時代前期のもので、滝沢編年4～7段階（7～10期）〔滝沢2019〕に位置づけられるものである。特に3トレンチおよび5トレンチ下層、8トレンチ下層出土品については、滝沢編年4・5段階（7・8期）頃を中心とし、5トレンチ上層および8トレンチ上層出土品は一段階後の滝沢編年6・7段階（9・10期）頃のものとして推測される。

（4）調査のまとめ

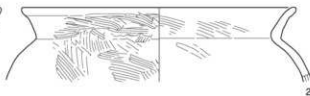
今回の調査対象区域からは遺構は確認できなかったが、3、5、8トレンチからまとまって古式土師器が出土した。土器を包含する土層がなんらかの遺構覆土なのか遺物包含層を形成したものなのか判然としない。

本遺跡から南東約150mにある釜淵遺跡でもほぼ同じ頃の集落が調査されており〔尾崎2016〕、同一遺跡である可能性がある。また、本遺跡から北西約500mにある丸湯遺跡では、釜淵遺跡と馬寄遺跡に後続する滝沢編年6・7段階（9・10期）頃の集落が確認されている〔伊藤・平岡^{ほか}2000〕。これらから、沖積低地の広い範囲の開発が古墳時代前期後半頃に活発化したことが推測される。

3トレンチ (1・2)

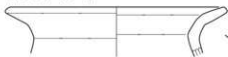


1

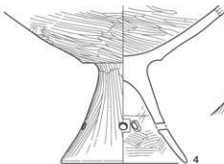


2

5トレンチ (3~9)



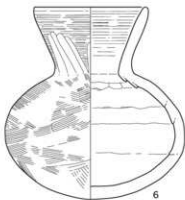
3



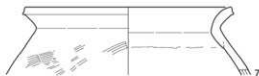
4



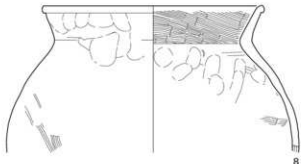
5



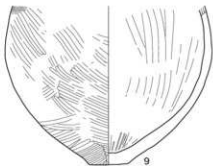
6



7

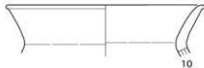


8

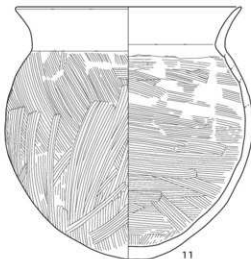


9

8トレンチ (10・11)



10



11

0 (1:3) 15cm

凡例

 赤彩

第5図 馬寄遺跡確認調査出土遺物 (S=1:3)

第三章 農業基盤整備事業関連

1 調査に至る経緯

令和4年度は加茂郷土地改良区による農業用排水路改良工事に伴い、舟戸遺跡を対象とした確認調査を行った。事業者から8月に工事予定区域が示され、周知範囲内の工事であることから確認調査を行うこととした。施工業者が決まり他の調査の進捗を勘案して10月以降から協議を行い、冬場施行を確認し、業者と連絡・調整を行い、準備を行った。

文化財保護法第93条第1項の規定による埋蔵文化財発掘届出について、加茂郷土地改良区理事長から令和4年8月19日付け加土改第95号で新潟県知事宛てに提出された。これを受けて市教委では、埋蔵文化財の発掘について、令和4年8月22日付け民資第106号で確認調査が必要であると副申した。そして、新潟県知事から令和4年9月1日付け文第905号で市教委教育長に対し、確認調査実施の指示文が発出された。

その後、文化財保護法第99条第1項の規定による埋蔵文化財発掘調査の着手報告について、令和4年11月16日付け民資第143号で新潟県知事宛てに提出し、確認調査を実施した。

2 舟戸遺跡

(1) 遺跡と確認調査の概要(第6・7図)

舟戸遺跡は加茂川左岸で現況水田地帯の沖積地に位置する。遺跡は平成7年の詳細分布調査により発見され、表層土器から古代・中世の遺跡として登録された。遺跡の南東部では市街地化が進んでいるが、周辺での開発は少なく、確認調査は平成30年に今回と同様の工事で一度行われたのみである〔伊藤



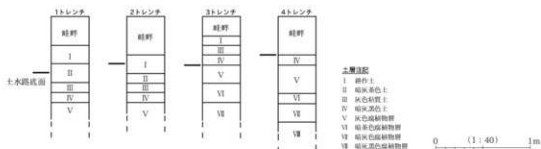
第6図 舟戸遺跡推定範囲と調査対象地位位置図 (S=1:10,000)

(加茂市 平成20年印刷 加茂市街図) S=1:10,000 原図



第7図 舟戸遺跡確認調査トレンチ位置図 (S=1:4,000)

(加茂市 平成11年印刷 [加茂市地図その7・8] S=1:2,500 抜図)



第8図 舟戸遺跡確認調査トレンチ土層柱状図 (S=1:40)

2020)。その際に土水路底面から古墳時代中期の土器が採取され、これまで石川遺跡出土とされてきた絵画土器との関連が指摘されている〔伊藤 2022〕。

確認調査は、令和4年11月24日に行われた。工事計画予定地内に任意にトレンチを設定し、重機により約1.2m×1.6mの大きさで4か所掘削し、遺構・遺物の検出および土層堆積の確認を行った。掘削の深度は排水路改良工事の最深部を大きく超えない程度とした。

(2) 層序 (第8図)

基本土層は、1～4トレンチで同様である。畦野(盛土)の下にI層灰色粘質土(水田耕作土)、II層暗灰色茶色土、III層灰色粘質土、IV層暗灰色土、V～VIII層は腐植物層が堆積する。掘削深度内では遺物包含層、遺構確認面(地山)ともに確認できない。V～VIII層の腐植物層から周辺一帯が湿潤な地形であったことが推測される。

(3) 遺構と遺物

遺構・遺物ともに確認されなかった。

(4) 調査のまとめ

堆積する土層から、調査対象区域周辺は低湿地であったことが想定される。工事による掘削深度内には遺跡は確認できず、埋蔵文化財への影響はないものと判断できる。

第IV章 ま と め

1 令和4年度調査について

令和4年度は、民間開発と排水路改良工事に伴い2遺跡を対象とした確認調査を実施した。ともに加茂市役所庁舎に隣接した水田地帯を対象としている。以下、各遺跡の成果と課題を記す。

馬寄遺跡 今年度の調査対象区域は平成9年調査区北側の隣接地であることから、遺跡が拡がる想定のもと確認調査を行った。その結果、3か所のトレンチから古墳時代前期の古式土師器が多く出土した。完形に近い状態で出土したのもあり、何らかの遺構に関係すると思われるが、遺物包含層ともども認識できなかった。平成9年調査区では上層に古墳時代後期、下層に古墳時代前期の土器を出土したトレンチもあったが、今回は古墳時代前期の幅の中で、上層と下層に別れて出土した。今回の調査で古墳時代前期の貴重な土器が出土したが、具体的な活動痕跡が確認できない現状は変わらないままである。

舟戸遺跡 本遺跡は周知化当初は古代・中世の遺跡として認識されてきたが、近年、古墳時代の土師器などが採集されていることなどから、上記の馬寄遺跡との関係も考えられる。今年度の調査対象区域は遺跡の南東端部にあり、許容された掘削深度内では遺構、遺物は確認できなかった。各トレンチの土層は腐植物層が堆積し、周辺一帯が低地で湿潤な地形環境であったことがうかがえた。沖積地に位置する遺跡の推定範囲内は、一様の地形環境ではなく、場所により様々な地形がモザイク状に広がっていることを推測させる。

2 加茂市内古墳時代前期遺跡の消長（案）について

このことについては、かつて下条川左岸の荒又遺跡の調査報告書や加茂市の古墳時代について記した際に検討したことがある〔伊藤 2011・2016〕。各遺跡の消長に変更はないが、時期区分を近年の研究成果

流域		遺跡名	時期区分〔滝沢 2011・2019〕								
			弥生時代終末 / 古墳時代早期				古墳時代前期				
			西暦 200		250						
			1 段階	2 段階	3 段階	4 段階	5 段階	6 段階	7 段階		
		様相 1	様相 2	様相 3	様相 4	様相 5	様相 6				
		4 期	5 期	6 期	7 期	8 期	9 期	10 期			
加茂川	左 岸	釜淵遺跡									
		馬寄遺跡									
		丸高遺跡									
		新通遺跡									
下条川	右 岸	中沢遺跡									
		鬼倉遺跡									
	左 岸	馬越遺跡									
		荒又遺跡									
		花立遺跡									

第2表 加茂市内古墳時代前期遺跡の消長（案）

に対応させた。

これまでの見解の繰返しとなるが、古墳時代前期の加茂川右岸の様相は不明ながら、加茂川左岸および下条川右岸・左岸では4・5段階（様相3・7期、様相4・8期）〔滝沢2011・2019〕に多くの集落が成立する。このことは阿賀北～鮎崎平野で多く認められる動向であり〔滝沢^{ほか}2019〕、加茂も同様の画期を持つことがわかる。細かく見ると、4・5段階主体の釜淵遺跡、馬寄遺跡から6・7段階主体の丸瀧遺跡、新通遺跡の区域へ集落が移動している可能性が高い。なお、下条川流域の遺跡が2小期ほど継続する短期型であるのに対し、加茂川流域の遺跡が3小期ほどの継続型に分類されることは注目される。

集落遺跡の消長は、下条地区にある福島古墳群や宮ノ浦古墳の年代を推測する際にも重要である。少なくとも集落が平野部に成立してくる4段階の画期以前の古墳造営の可能性は低であろう。今後、古墳群真下の扇状地で発掘された花立遺跡の出土土器の研究が鍵を握る。

引用・参考文献

- 伊藤秀和 1997 『加茂市文化財調査報告（7）平成8年度 加茂市内遺跡確認調査報告書』 加茂市教育委員会
- 伊藤秀和 2011 『A 荒又遺跡出土の古墳時代前期の土器と集落遺跡の消長について』『加茂市文化財調査報告（21） 泉宮ほ場整備事業吉津川地区に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書 荒又遺跡 太田遺跡発掘調査報告書』 加茂市教育委員会
- 伊藤秀和 2016 『加茂市の古墳時代』『新潟県考古学講演会（第2回） 越後平野南東部の古墳時代』 新潟県教育委員会
- 伊藤秀和 2020 『加茂市文化財調査報告（32）平成30年度 加茂市内遺跡確認調査報告書』 加茂市教育委員会
- 伊藤秀和 2022 『伝石川遺跡出土の古墳時代線刻画甕書』『加茂郷土誌』第40号 加茂郷土調査研究会
- 伊藤秀和・平岡和夫^{ほか} 2000 『加茂市文化財調査報告（10） 丸瀧遺跡・新通遺跡』 加茂市教育委員会
- 小山正忠・竹原秀雄（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色研研究所色票監修） 1967 『新版標準土色帖』（1998年版） 日本色研事業株式会社
- 尾崎高宏 2016 『第3章 第2節 2釜淵遺跡』『加茂市史 資料編4 考古』 加茂市
- 加茂市史編集委員会 2016 『加茂市史 資料編4 考古』 加茂市
- 川上貞雄・長谷川昭一^{ほか} 1987 『加茂市文化財調査報告（3） 東部地区遺跡詳細分布調査報告書～国営加茂東部地区総合農地開発事業周辺地域～』 加茂市教育委員会
- 滝沢規朗 2005 『土器の分類と変遷～いわゆる北陸系を中心に～』『新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現』第1分冊 新潟県考古学会
- 滝沢規朗 2011 『阿賀北における古墳時代前期の土器について（上）～器種分類と基準資料の提示～』『三面川流域の考古学』第9号 奥三面を考える会
- 滝沢規朗 2012 『阿賀北における古墳時代前期の土器について（下）～細別器種毎の変遷について～』『三面川流域の考古学』第10号 奥三面を考える会
- 滝沢規朗 2019 『第4章 第2節 第1項 前期』『新潟県考古学会設立30周年記念誌 新潟県の考古学』Ⅲ 新潟県考古学会
- 滝沢規朗^{ほか} 2019 『第4章 第3節 第1項 遺跡の立地と集落の消長』『新潟県考古学会設立30周年記念誌 新潟県の考古学』Ⅲ 新潟県考古学会
- 中川見子・高橋保雄^{ほか} 2016 『一般国道8号 糸魚川東バイパス関係発掘調査報告書XⅠ 六反田南遺跡V』 新潟県教育委員会 公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

別 表

凡 例

- 1 残存率 表/36で残存割合を示した。
- 2 胎土 含有物は土胎の胎土中に含まれる鉱物等について記した。「石」は石英類、「砂」は砂類、「雲」は雲母を表す。
- 3 焼成 観察者の主観的判断で「良好」、「並」、「不良」に分類した。
- 4 色 調 『新版標準土色帖』[小山・竹原 1967] (1998年版)の記号を記した。

別表1 馬寄遺跡 土器観察表

観 No.	観 No.	出土位置	種類	器種	法線 (cm)			残存率		胎土 含有物	焼成	色調		手法			備考
					口径	口径	器高	口縁	底縁			表面	内面	表面	内面	底面	
	1	3トレンチ	古式土器類	高杯	20.2			3/36		石・砂	良好	2.5YR5/4 赤灰	10YR5/4 赤灰	ミガキ、赤彩	ミガキ、赤彩		
	2	3トレンチ	古式土器類	甕	21.8			4/36		石・砂	並	10YR7/2 赤灰	2.5YR/2 赤灰	黒いハケメ	ナゾ		
	3	3トレンチ 上層	古式土器類	甕	17.6	5.2		4/36	31/36	石・砂	不良	2.5YR/2 灰白	10YR6/2 灰黒	ナゾ	ナゾ		
	4	3トレンチ 下層	古式土器類	高杯	10.0	(12.5)		26/36		石・砂	並	5YR7/4 にぶい黄	2.5Y7/3 浅黄	ミガキ	杯底：ミガキ、 黒彩：ナゾ、 ハケメ	杯底赤面黒面、 側面：口 径0.5cmの円孔、4-14等	
5	5	3トレンチ 下層	古式土器類	甕白						石・砂	並	2.5Y6/3 にぶい黄	10YR6/2 灰黒	ミガキ	ナゾ、ハケメ	内面：スス付着、 表面： コケ、直径1.0cmの円孔、 約3ヶ所	
	6	3トレンチ 下層	古式土器類	小型甕	9.0		15.2	28/36		石・砂	並	5YR7/4 にぶい黄	10YR6/2 灰黒	口：ナゾ、ミガキ、 黒いハケメ	ナゾ	輪縁み肌	
	7	3トレンチ 下層	古式土器類	甕	16.4			9/36		石・砂	並	7.5YR6/2 赤灰	5YR6/2 赤灰	ハケメ	ナゾ	輪縁み肌、 表面：スス付 着	
	8	3トレンチ 下層	古式土器類	甕	17.4			8/36		石・砂	並	2.5Y7/2 灰黄	10YR6/3 浅黄	ナゾ、ハケメ	ナゾ、ハケメ	外・内面：スス付着	
	9	3トレンチ 下層	古式土器類	甕	3.0			36/36		石・砂	並	7.5Y7/1 灰白	5Y7/2 浅黄	ハケメ	ナゾ	ハケメ	表面：スス付着
	10	3トレンチ 上層	古式土器類	甕	15.8			8/36		石・砂	並	10YR8/2 灰白	2.5Y7/2 灰黄	ナゾ	ナゾ	表面：スス付着	
	11	3トレンチ 下層	古式土器類	甕	17.8		20.0	17/36	36/36	石・砂	並	5YR/2 灰白	7.5Y7/1 灰白	ナゾ、ハケメ	ナゾ、ハケメ	輪縁み肌、 表面：スス付 着、内面：コケ	

写真図版



馬寄遺跡周辺の空中写真



調査地近景（北から）



調査地近景（南東から）



5 トレンチ 調査風景（北から）



8 トレンチ 調査風景（南西から）



1 トレンチ 土層断面 (南東から)



2 トレンチ 土層断面 (南東から)



3 トレンチ 遺物出土状況 (南西から)



3 トレンチ 土層断面 (南東から)



4 トレンチ 土層断面 (南東から)



5 トレンチ 下層遺物出土状況 (北東から)



5 トレンチ 土層断面 (南西から)



6 トレンチ 土層断面 (南東から)



7トレンチ 土層断面（北西から）



8トレンチ 下層遺物出土状況①（北東から）



8トレンチ 下層遺物出土状況②（北東から）



8トレンチ 土層断面（北西から）



9トレンチ 土層断面（北西から）



10トレンチ 土層断面（南東から）



11トレンチ 土層断面（南東から）



12トレンチ 土層断面（南東から）



13トレンチ 土層断面(北西から)



14トレンチ 土層断面(北西から)



15トレンチ 土層断面(北西から)



16トレンチ 土層断面(北西から)

3トレンチ (1・2)



1

2

5トレンチ (3~5)



3

5



4



5トレンチ (6~9)



8トレンチ (10・11)





調査地近景（北西から）



調査地近景（南東から）



1 トレンチ 調査風景（北東から）



3 トレンチ 調査風景（北西から）



1 トレンチ 土層断面（北東から）



2 トレンチ 土層断面（北東から）



3 トレンチ 土層断面（北東から）



4 トレンチ 土層断面（北東から）

報告書抄録

ふりがな	かもしないいせきかくにんちようさほうこくしょ							
書名	令和4年度 加茂市内遺跡確認調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	加茂市文化財調査報告(36)							
編著者名	伊藤秀和							
編集機関	加茂市教育委員会 社会教育課							
所在地	〒959-1392 新潟県加茂市幸町2丁目3番5号 TEL. 0256(52)0080							
発行年月日	西暦 2023年10月20日							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
馬寄遺跡	加茂市大字加茂 字馬寄 2567番 1ほか	15209	123	37度 40分 02秒	139度 02分 20秒	20221003～ 20221128	84	民間開発 (店舗建設)
舟戸遺跡	加茂市大字加茂 字舟戸 2850番 地ほか	15209	124	37度 40分 07秒	139度 02分 21秒	20221124	8	農業用排水路 改良工事
所取遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
馬寄遺跡	遺物包含地	古墳・古代					古式土師器	
舟戸遺跡	遺物散布地	古墳・古代						

加茂市文化財調査報告(36)
令和4年度
加茂市内遺跡確認調査報告書
馬寄遺跡
舟戸遺跡
印刷年月日 令和5年10月13日
発行年月日 令和5年10月20日
発行・編集者 加茂市教育委員会 〒959-1392 新潟県加茂市幸町2丁目3番5号 TEL. 0256(52)0080
印刷所 株式会社 小野塚印刷所 〒959-1354 新潟県加茂市新町1丁目5番16号 TEL. 0256(52)0056